

若年層における Twitter 利用に関する研究

○大谷光一 (OTANI Koichi)

Keywords : Social Networking Service、Twitter、情報発信、情報接触

1 目的

情報があふれる現代において、情報の取捨選択の必要性は高まっている。ソーシャルネットワーキングサービス（以下 SNS と記す）は自ら情報を発信するだけでなく、自分の興味がある情報を効率よく収集する事ができる特徴を持っている。SNS の主要サービスの一つである本研究は、SNS を積極的に活用している若年層を対象に、SNS の主要サービスの一つである Twitter について、どのように活用しているのかを調べることにより、SNS が情報収集としての役割を果たしているのかを明らかにすることを目的とする。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、武庫川女子大学の在学生 101 名を対象にアンケート用紙を配布し回答を得た。アンケート結果においては統計解析を行っている。また、考察を深めるため被検者数名へヒアリングも実施した。

3 結果

調査・分析の結果 Twitter の利用率は 97.8%であった。アカウント数も複数持つ被検者が多く平均 3.71 所有していた。アカウントの使い分け状況を聞くと、趣味用のアカウント、愚痴をこぼす専用のアカウント、グループごとにアカウントを切り替えていることが分かった。

4 結論

以上により、Twitter には本来、タイムラインを整理する「リスト」機能を利用せず、アカウント自体を切り替えることがわかった。若年層は Twitter を通じて、人とのコミュニケーションを行わない ROM（閲覧専用）のアカウントや、愚痴をこぼすためのアカウントを使用しており、情報発信とは異なる利用方法があることがわかった。

【主要参考文献】

- 石井健一 (2011) 「「強いつながり」と「弱いつながり」の SNS 」情報通信学会誌
白石秀壽ら (2012) 「Twitter におけるコミュニケーションの探索的分析」三田商学研究
中田美喜子 (2015) 「SNS による大学生のコミュニケーションについて」広島女学院大学国際教養学部紀要
鳥海不二夫 (2015) 「Twitter 上のビッグデータ収集と分析」組織科学 特定非営利活動法人組織学会
高橋直樹ら (2017) 「Twitter における感情分析を用いた炎上の検出と分析」信学技報 電子情報通信学会
天笠邦一 (2018) 「ソーシャルメディアの選択的利用に関する一考察」学苑 昭和女子大学近代文化研究所 など